

2019年度事業報告

(2019年4月1日～2020年3月31日)

2019年度は、中国・武漢市で流行した新型コロナウイルスが2020年2月ころから世界各国で感染拡大し、中国をはじめ欧州や米国、日本で多数の感染者、死者が出ました。各国で感染拡大阻止のため厳しい入国制限を実施したほか、「ロック・ダウン」(都市封鎖)で人の移動を厳しく制限する政策がとられ、中国を中心とするサプライチェーンの崩壊で世界経済は大きく減速しています。日本でも全国に非常事態宣言が出されて外出自粛が要請されたほか、東京都を中心にイベントや接待を伴う飲食店などに営業活動の自粛が要請されました。また、2020年7月に予定されていた東京五輪も1年間延期されました。

18年に勃発した米中貿易戦争は、政治、安全保障も巻き込んだ本格的な米中対立のステージに入りました。これに新型コロナウイルスをめぐる対立が加わって「米中新冷戦」とも言われる状況になり、先行きが見通せません。アジアでは、香港で逃亡犯条例改正問題を機に大規模デモが続き、香港情勢に刺激を受けた台湾では、それまで劣勢だった蔡英文総統が20年1月の総統選で圧勝するなど、中国の「1国2制度」構想は揺らいでいます。

こうした情勢のもと、アジア調査会は五百旗頭真会長を中心に講演会、シンポジウムの開催、アジア時報の発行、毎日新聞社との紙面連携等を通してアジア・太平洋地域を中心とする政治、経済、安全保障問題にコミットしました。

定例講演会は▽劇作家、山崎正和氏(2019年5月15日)▽孔鉉佑氏・中国大使(同年9月10日)▽エズラ・ヴォーゲル氏・ハーバード大学名誉教授(同年11月21日)▽鶴岡公二氏・前駐英大使(2020年2月25日)——を帝国ホテルで実施しました。また台湾総統選挙などをテーマに2019年8月22日、日本記者クラブで国際シンポジウムを実施し、多数の参加者がありました。同年9月3日にはユーラシア・アジア研究会と共催し毎日ホールでセミナーを開催しました。

アジア調査会最大の事業であるアジア・太平洋賞は、大正製薬、日本生命、クリプトン、久永カンパニー、公益財団法人渋沢栄一記念財団、一般財団法人MRAハウス、三輝工業の協賛、全日本空輸の協力を得て、第31回を無事に開催することができました。

大賞に小比木政夫・慶應義塾大学名誉教授著『朝鮮分断の起源 独立と統一の相克』(慶應義塾大学法学研究会)のほか、特別賞に清水麗・麗澤大学外国語学部教授著『台湾外交の形成 日華断交と中華民国からの転換』(名古屋大学出版会)など3点を選出し、11月13日にレストラン「アラスカ」で表彰式を実施しました。

このほか、毎日新聞と連携し、毎月1回、毎日新聞とアジア時報にコラム「激動の世界を読む」を掲載しました。このコラムは英訳をアジア時報と毎日新聞の英文サイトに掲載していることから、海外メディアや国内の英文発信サイトからも転載の要望が来るなど注目されています。

年10回発行しているアジア時報は、今年で連載3年目を迎える『灰色の領域～米国の核の傘と非核三原則の交差点』(解説・中島琢磨九州大学准教授)などが研究者から注目を浴び、高い評価を得ました。

このほか、日中交流研究所主宰の中国人の「日本語作文コンクール」を昨年に引き続き後援しました。

以上

(1) 調査・研究
◇ アジア研究委員会

アジア研究委員会は諸般の事情により現在、中止しています。新たな研究会を検討中です。

◇ 講演会・公開シンポジウム

定例講演会を4回・公開シンポジウムを1回開催しました。アジア調査会が主催する国際シンポジウムを日本記者クラブで1回開催しました。

1. 回数／5回
2. 講師／日本人 5人
外国人 3人
3. 講演場所／東京 5回

2019年度（平成31年度）講演会

〔東京〕

- | | 2019年（平成31年） |
|---|-----------------|
| ① 山崎 正和（劇作家、評論家）
「歴史の中の平成日本」 | 5月15日 東京・帝国ホテル |
| ② 孔 鉉佑（駐日中国大使）
「新しい時代にふさわしい中日関係に向けて」 | 9月10日 東京・帝国ホテル |
| ③ エズラ・ヴォーゲル（ハーバード大学名誉教授）
「米中対立の中の日中関係」 | 11月21日 東京・帝国ホテル |
| | 2020年（令和2年） |
| ④ 鶴岡 公二（前駐英国全権特命大使）
「民主主義の試練、ブレグジットを考える」 | 2月25日 東京・帝国ホテル |

2019年度（平成31年度）国際シンポジウム

- 張 瑞昌（財団法人中央通信社＝台湾＝社長）
小笠原 欣幸（東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授）
野嶋 剛（大東文化大学特任教授、ジャーナリスト）
坂東 賢治（毎日新聞東京本社論説室専門編集委員）
「変貌する現代台湾 政治・社会意識の変化とソフトパワーの魅力」 8月22日 東京・日本プレスセンター

(2) 出 版

月刊情報誌「アジア時報」を10回発行(7・8月号、1・2月号は合併号)しました。アジア調査会主催講演会の講演内容を全文掲載したほか、毎日新聞と協力して作成しているアジア・太平洋賞選考委員らによるリレー・コラム「激動の世界を読む」を英訳付きで掲載しました。また、1980年代に毎日新聞が取材し特報した「ライシャワー発言」を含む一連の企画の取材記録を公開する「灰色の領域～米国の核の傘と非核三原則の交差点」の連載も3年目を迎えます。メディアの取材記録の公開は例がなく、日本の安全保障政策の深層を伝える企画として大きな反響を呼んでいます。

(3) 事 業

◇ 第31回「アジア・太平洋賞」

アジア調査会創立25周年記念事業として、平成元年に創設され、内外の優れた著書を顕彰してきた「アジア・太平洋賞」(協賛・大正製薬、日本生命、クリプトン、久永アンドカンパニー、渋沢栄一記念財団、MRAハウス、三輝工業(大阪) 協力・全日空(ANA))は、学界・出版界等の注目のもと、31回目を迎えました。応募総数は87点と、国際的にも注目される賞となってきました。

第31回の受賞著書は下記のとおりで、2019年11月13日に東京で表彰式を行いました。

《 大 賞 》 賞金 200 万円 副賞 ANA 国際線航空券

『朝鮮分断の起源』〔慶應義塾大学法学研究会〕

小比木 政夫 慶應義塾大学名誉教授

《 特 別 賞 》 賞金 30 万円

『台湾外交の形成』〔名古屋大学出版会〕

清水 麗 麗澤大学外国語学部教授

『ドル防衛と日米関係』〔千倉書房〕

高橋 和宏 法政大学法学部教授

『グローバル・バリューチェーン』〔日本経済新聞出版社〕

猪俣 哲史 ジェトロ・アジア経済研究所上席主任調査研究員

◇ 毎日講演センター

各種の講演会や研修会に講師を斡旋する「毎日講演センター」は、不透明な国内政治、経済状況を反映して、各種団体、企業、自治体等からの依頼に応じて、政治・経済などの権威ある講師を派遣し、情報提供に貢献しました。

会 計 報 告

2019年4月1日から2020年3月31日までの会計年度における総収入は30,805,918円、総支出は35,292,238円、差引損失金は4,486,320円となり、これを次期に繰り越しました。

附 属 説 明 書

該当事項がないため、記載を省略します。